

## 平成28年10月の大阪森林便り



### **耐火木材、コスト4割減 鹿島など 4階建てビル対応**

鹿島や住友林業など4社は、火災が1時間続いても燃えきらない木質の建築部材を刷新し、「大臣認定」を取得したと発表しました。

地上4階建てのビルなどの柱や梁に使い、製造コストを既存品より4割削減しました。部材の内側に難燃性薬剤を注入した層を設け、芯部分への延焼を食い止めます。

国産木材を使い、岩手県と石川県の委託先で製造。住友林業が窓口となり販売。

鹿島などは最大で地上14階建ての建物の柱や梁にも使える2時間の耐火性能を持つ木質部材の開発も進めます。

(2016年9月10日 日本経済新聞記事から抜粋)



### **林業活性化VBが新風 木材入札ネットで 国産材ファン作り**

林業用のシステムを開発するウッドインフォは、木材のウェブ入札システムを開発。登録した業者がネットで木材をチェックして入札します。2014年に導入した岩手県森林組合連合会では導入前に比べ取引量が3倍に増えました。

ASロカスは、森林に関する様々なデータを一覧できるシステム「森林ICTプラットフォーム」を開発。地形図や航空測量写真、森林所有者の区分図、生えている木の種類などを記した森林資源、路網情報など、千以上のデータを一つのシステムに入れられます。

東京チェンソーズは間伐などの体験イベントを年20～30回、社有林で開いています。

林業を稼げる産業にするには、国産材の使用を増やし、価格下落を食い止める必要があります。

### **林業従事者 高い高齢化率**

2010年の国勢調査によると、林業従事者は全国で51,200人。全体に占める65歳以上の割合は前回の2005年調査より6ポイント下がり、21%となりましたが、全産業平均の10%より高くなっています。

木材の国内生産量を総需要で割った木材自給率は2014年に31.2%で、1988年以来、26年ぶりに30%台を回復しました。戦後造成された人工林の約5割が樹齢50年程度と利用期を迎え、供給量が増えたためなどです。

(2016年9月19日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 今月の木の話

## 光線・紫外線吸収効果

### お天気がいい日も室内はまぶしくない。なぜかしら？

外は晴天で目を開けて歩けないほどなのに、室内だとあまりまぶしく感じない。これには室内の反射率が関係しています。特に、木質材料を使った室内は、目に優しい環境を作っています。目が疲れると体全体が疲れてしまいます。

人間の目に最も心地よいとされるのは、50～60%の反射率です。ヒノキや畳の反射率はちょうど50～60%です。杉や障子も同じくらいの反射率があります。アルミやタイルなどで反射率が90～100%もあります。室内環境は住んでいる人の精神状態にまで影響を及ぼすともいわれています。

また、木材は紫外線を最もよく吸収することで知られています。

(社団法人福岡県木材組合連合会「木のある生活」より抜粋)

